

# 全佛通信

七月号  
発行所  
財団法人  
全日本仏教会  
東京都中央区築地  
三ノ一本願寺内  
電話 541-0311  
振替東京 2520  
発行人 栗本俊道  
編集者 別所弘因  
印刷所 ルンビニ社

## 南御堂に一千の代表

### 第十回全日本仏教徒会議 大阪大会

#### 都市寺院のあり方に熱烈な論議

第十回全日本仏教徒会議大阪大会は、地元大阪府仏教会の理解ある協力のもと、長期にわたる幾多の困難を克服して、六月一、二日両日にわたり、東本願寺難波別院及び四天王寺を会場として、盛大に開催された。

幸に、天候に恵まれ、関西の大都市、大阪において開催された本大会は、議題も「都市における寺院活動」を中心として、真摯熱烈にして且つ建設的な討議が活発に行われ、第十回を記念するに相応しく盛会であつた。

特に、会場にあてられた、南御堂四天王寺、相愛学園、四天王寺学園御当局におかれては、公私共御多端の所を、大会開催のため積極的御奉仕を頂き、準備万端遺漏なきを期せられた御好意に對しては、衷心より深甚なる感謝の意を捧げるものである。

#### 第一日

開会は、六月一日午前九時先づ第一会場である東別院南御堂ホールにおいて幕を上げた。この盛會に、全国より参集した

議運について塚原委員長の説明あり、終つて白山事務総長より、全仏の事務報告を行つた後議長交代し長岡議長のもとに議案の上提(二十議題)部会の編成(三部会)部会長、大会宣言決議起草委員の選出、及び日程その他の説明があり、ここで午前中の予定を滞りなく終了し、南御堂前広場で記念撮影を行つた。

午後は一時より、三部会に分れ夫々、所定の部会場において今大会の議案が討議された。

今大会の議案は総て二十議案で(含廃案一)であつたが、一団休一議案を建前とする本年の議案は、すべて各団体を代表する権威あるものであつた。(部会報告は別に詳細)午後五時より相愛学園主催のもと同校講堂において「新形式による仏教儀式の発表と仏教音楽の夕べ」が開かれ仏前にぬかずく清浄可憐なる乙女の姿には満堂の観衆齊しく深い宗教的感銘に打たれた。

#### 第二日

会場を四天王寺に移し、午前八時三十分より総會に入り、各部会長より前日の部会報告があり質疑応答の後報告の通り決議された。更に大会宣言決議文の発表があつたが、これも若干の修正の後満場一致の賛成を得て採択された。

この後、本部より緊急動議として、大阪府仏当局に対する感謝決議文の上提、及び次期大会開催予定地に関する栗本局長の発表があり、満場一致了承された。

最後に、議長より本大会に對する各方面の協力に對して深甚なる感謝の辞があり、閉會式に入つた。大会は、十一時五十分、地元会

長岡野敬重氏の首領により、万歳を三唱して輝ける第十回大会の幕を閉じたのであつた。

#### 第七回

### 全仏講習会の御案内

布教者が常に時代感覚を身につけ、広い視野をもち、他宗他派の布教伝道に注意して他山の石とする雅量を持つ事はこれからの仏教興隆について極めて大切なことであります。

この意味において、今年第七回講習会は、聊かこの趣旨を徹底せしめるため、禅、念仏、密教、題目の各部門について夫々の権威者に布教の実演を依頼し、他に専門外(在家の信考)より仏教に對する要望を聞き、最後に参加者相互の討議を行う予定である。これによつて各宗派布教者が実益を習得し、研修し、全仏としての講習会の目的の一部を完う出来るものであることを信じて疑わぬ、願わくは多数参加者の御來會を期してやまない所でありませう。

- 一、時 八月二十、二十一日両日(一泊二日)
- 二、所 東京、高尾山薬王院(東京都八王子市高尾)

時三十分、A・B両コースに従つて市内と近郊の觀光見学の途についたが、最後に一言、終始かわらぬお骨折と御丁寧なる御協力を賜つた関係各位に對しまして、衷心より感謝の意を表する次第である。

- 三、日程 八月二十日(月)十時受付、十一時半開講式、十二時一時休憩屋食、一時五時半講演、七時半より討議(二十一日(火)八時、十一時半講演、午後十二時半二時特別講演、二時半閉講式、解散)
- 四、参加資格 本会加盟団体の推せん者
- 五、申込 八月十日
- 六、参加費 一、五〇〇円(宿泊費一泊四食共)
- 七、申込 全日本仏教会宛 東京都中央区築地三ノ一本願寺内 電話(541)〇三二三
- 八、なお詳細については本会宛照會されたし。

以上

# 第十回全日本 仏教徒会議

## 第一部会

部会長 二宮清海、野村宗春、水谷英俊、牧野ます、若槻修道、伊藤宗順、辻正円、葛本清修、近藤了進、秦隆真、常住隆寛、船口暉子、栗本俊道、吉井淨仙、鎌田良昭

本 部 参加者凡そ三百名  
附託議案 第1、2、4、10、13 計七件

1号 都市勤労者層の無宗教性と、これに対する仏教の対策について

京都仏徒会議 細井 友晋 勤労者層、特にインテリ階級が現代ほど無宗教である時代はない。むしろ、無宗教であることをもつてインテリの特性であるような誤った思想風潮が横行している。そして僧侶自体も本質的には非近代的であつて、新しい時代を指導する資格に乏しい。

この対策としては、先づ家庭婦人が自分の子供を育成することから出発して、家庭の中から宗教に親しむような雰囲気を作り出すこと、信仰を引出すような努力をすること、これが最も卑近な効果ある対策であるとの提案者の説明に対し、満場一致で決議採択された。

2号 宗教家は、最良の布教方法として宗教心理学を生かそう。

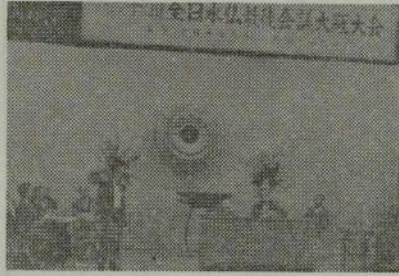
静岡原 仏魚尾見久 宗教を求めるとは、必ず何らかの御利益を願うもので、この期

## 部 会 報 告

待に答えてやるのが宗教家の任務である。新興宗教が一応の成功を見せているのは、この心理をうまく利用しているからである。われわれ仏教徒は、むしろ彼ら以上にこの点を利用して、誠心をもつて世の悩める人々を導くべきである、との説明あり、異議なく了承採択。

3号 青壮年層に対する仏教思想の普及方法について

香川県仏 楠 善孝 現代の青少年が寺院によりつかない傾向にあるのは一体何を意味



南御堂大ホールにおける部会

するの、か、という反省から出発してこれは、若い人々に仏教者が宗教というものを強要する所があるからではなからうかという素直な意見を開陳した提案者は、仏教者が真に青少年に仏教思想の普及をしようとするならば、先づ各自の家庭で、自分の子供を無理のない方法で正しく善導することが大切

ではあるまいか、と訴え満場の賛成を得て可決された。

4号 教法社会建設の方途如何

大谷派 西山 邦彦 現今の寺社の関係を見るのに、多くは只経営面即ち、経済的面のみである。精神的、教化的面においては生き生きしたものが見られない。これは、仏教者の無自覚と精神的欠陥を暴露するもので憂慮にたえない。名実共に充実した、生氣溢れる教法社会、即ち仏教の真理を実現したこの世の浄土を建設するために努力しよう。との説明あり、更に提案者は具体的に、自己の属する真宗大谷派においては、既に同朋会を作り、宗派を超越した立場でこれを仏教界全般に普及せしめるため、只今準備中である旨説明あり、満場一致、可決採択された。

10号 都市における寺院活動について

本願寺派 松野尾潮音 従来農山漁村が中心であつた本願寺の門信徒も今やその割合が七対三という比率で都市に移行しつつある状態に鑑み、教学と組織の面を更に拡充強化して都市の門信徒にマッチした方法を研究しなければならぬ。組織的には門信徒を細胞と見て、この細胞の結合の上にその総体としての宗派というものを見て行きたい。そのためには、各教区毎に巡廻相談所を設け、相談員のオルグを派遣し、趣旨の徹底と組織の拡充を図るよう末寺の各位にこの運動の促進を要請したい。このようなオルグ活動によつて、ひいては仏教界全体の

体質改善にも役立つのではないかという構想のもとに提案者は、具体的事例を上げて説明し、詳細にわたつて論述したが、満場一致をもつて可決採択した。

13号 国土の美化運動について

全日仏婦 山本 杉 外国にくらべていろいろの点で最も美しいこの日本の国土が、どこに行つても塵や、紙くづで汚されている。もつとわれわれは日本人として国土愛、郷土愛を持ちたい。それには仏教徒が率先して清掃に力を入れ、社会を浄化し、それによつて人間性を磨いてゆきたい」と力説、全員これに賛同し仏教徒の一人一人がこの運動に協力することを申し合せ採択された。

17号 一般教化及青少年教化について

高野山真言宗 亀山弘宥 これは、提案者不参のため廃案となつた。午後三時四十分閉会 (記録担当、鎌田良昭)

## 第二部会

部会長 木下亮孝、鶴岡隆玄、清谷得竜、川田聖見、川島サダ

議長 林湛空、鎌原佑元、宮崎文輝、増田円磨、鶯地一隆、田中興哉

本 部 狩野獲麟、柳了堅、門屋大寿、福井清俊

参加者凡そ、二百五十名  
附託議案六件 (5、6、7、8、9、15)

5号 全日仏は、宗教法人の行う宗教活動に対して、公的援助

並に金融の道をひらき、仏教興隆のため後援財団の設立を要望する。

神奈川県仏 吉本 道観

現在の国家制度では、宗教法人に対して金融の公的援助は認められていないのに鑑み、全日仏は仏教興隆のため理解ある財界から強力な財的援助をうけ、強力な財団法人となるよう努力することを要望すると提案説明があり二、三の質問があつたが可決採択された。しかし、これは具体的には専門的知識を必要とするので、一応全仏に廻付し善処することです承した。

6号 都市における寺院と一般大衆とのつながりを深める方法について

大阪府仏 増田 円磨 8号 仏教精神昂揚のため、寺院の施設、建物、境内地等を開放して、教化のセンターとなる。

浄土宗 佐和 明淳 議案の内容に関連性があるの、一括審議に入つた。この議案は、保育園、子供会などが個々の対象となるべきであるとの意見が出たが、左の通り提案。

讀仏歌の趣旨を汲んで可決採択された。

1、施設、建物、境内地などの利用にあつては、単に寺の経済経営にプラスする点からのみ考えないで、教化面についても近代的脱皮をして行こう。

2、寺院と一般とのつながりを深める一方策として、近代感覚にマッチした歌声運動を起すべきである。新しい仏教聖歌の讃

3 仏教の声運動を推進しよう。  
大衆とのつながりを深め、教化のセンターとなるため、全国各地にある仏教寺院共済制度の横のつながりを緊密にすることも一つの有益な方策であるから、これは、全仏が仲介の労をとつてこの対策の達成に努力してほしい。

7号 仏教興隆のため、寺院経営の近代化に関する研究機関を設置しよう。  
現代仏教界における通弊は、寺院の存在そのものに対する研究機関がないことである。しかも現在の宗教法人法は、保育事業などの面についての理解が極めて足りない。法人法を宗教活動に適するようには当然全仏の組織局で研究善処すべき問題である。との意見あり、更に、寺院の経済活動状態についての詳細な調査報告あり、全仏として狩野局長より「限られた予算の中で多くの仕事を、困難が多いが、出来るだけ期待に添うよう努力したい」と答弁あり採択された。

9号 寺檀の有機的結合による教団の再編成について  
曹洞宗 宮前 鳳洲  
提案者より有機的結合の具体的事例として、  
1、宗派(門)護持会に再検討を加え、これを寺檀の生きた結合体とするよう再編成をすること。  
2、寺院に現在帳を設備せよ。  
過去帳のみにたよっている時代

15号 降誕会(花祭)を全国一斉に統一して行おう。  
福岡県仏 横山 従生  
四月八日を「ブツダ・ジャヤンテイ」として、釈尊降誕会を世界の大聖典として祝福しよう。  
又水蓮を型どつた仏教徒バツジを作り、これを街頭で頒布してこの利潤を全仏の基金とせよ、との提案者の要請あり可決された。

この度「アジア教類協会」が設立され、先ずインドの救らい運動を一億五千万の予算で始めていく。これに、日本の仏教徒は協力しようではないか。という提案者からの説明と要請があつた。  
これに対して、仏青方面より右協会の性格や、具体的協力方法について質問がなされたが、大局的に「協力する」で満場一致可決採択された。

第三部会

部会長 安藤寿雄、佐藤寛雄、佐瀬淳光、左藤行子、  
武貴貴、北之内真竜、  
水尾頼、滝野弘澄、松田照広、壬生照順、仲田順和、小西顕電、  
石川存静、別所弘因、相馬広済  
本部  
馬広済  
凡そ、二百五十名  
附託議案 七件(11、12、14、16、18、19、20)

11号 インドの救類運動に協力しよう  
仏教讃仰会 中山理々  
アジア、アフリカ等の未開発地域における救らい運動は、全世界の人道問題である。これは、特に宗教家の率先して救済の手をさしおこなうべきでない問題である。キリスト教関係では、既に世界的な規模のもとに、毎年救らい運動を展開しているのである。

12号 寺院教会の統廃問題について  
日蓮宗 中条 是竜  
これは議案ではなくて、皆さんのお智慧拝借事項であると冒頭、提案者よりことわりあり「全国の無住寺院を自然淘汰的な整理に任せておくか、積極的にこれを推進すべきか御意見を拝聴したい」ということで、これに対して「寺院に私有住宅化しているような無信念な住職はやめてもらい、寺院も整理処分した方がよい」(静岡県仏)とか「寺院の統廃というような、おかしな議案が上提される、その精神的底流こそ大問題ではないか」(大阪府仏)等の議論が活発に交換されたが、この問題は、仏教徒、寺院住職が自らの胸に手を当てて自らの自覚と信念において善処すべき問題である、との結論に達した。

14号 思想対策教化研究機関を設立しよう  
和教会 木山 十彰  
思想問題を恐れてはいけない。カンリツクが、堂々と共産主義に反対しているように、仏教徒も、権威ある研究機関を設けて、思想

16号 国際仏教の交流について  
仏教同志クラブ 堤 敏郎  
提案者より「仏教徒も、目を大きく海外に開いて、国際仏教の交流に深い関心を示してほしい」との意見が述べられ、インドのカルカッタにおける国際仏教センターの設立、日米両国における仏教東漸七十周年記念会の事業など、具体例があげられた。  
質疑においては「南北仏教の相違をどうするか」(静岡県仏)「先年約束した中国仏教協会代表招待の件はその後どうなつていくか」等がなされたが、中国仏教協会代表招待の件に関しては、全仏石川局長より「現在着々準備を進めて、連絡をとつていくこと、並びに最近では国際仏教への窓口が全仏だけでなくいろいろの団体から行われていることは大変よろこばしい傾向であると思う」との報告と感想が述べられた。  
ここで、部会長は五分間の休憩を宣した。

18号 都市寺院の活動に、平和問題を積極的に取り上げよ。  
近代仏研 壬生照順  
仏教徒の理想として、全面軍縮、平和憲法の擁護をこの大会の問題を研究して行きたい。との提案者からの説明があつたがこれに対し「思想問題を恐れる必要はないが、青年の思想を受け容れないような思想対策や、思想問題研究機関の設置には反対である」(近代仏研)との意見がのべられ、これについては、全仏の専門委員会にかけて善処することで了承された。

19号 都市における仏青運動について  
全日仏青 青柳 郁  
大阪仏青よりの提案で、  
1、現在の寺院住職は、社会の実態に対して正確な認識を持つともせず、思い上つた教化をしているのではないか。  
2、これをひるがえつて、仏青自体の上に反省して見る時、仏青自体自覚と誇りが足りない。  
3、地域仏青より、最近では職場仏青の必要性が強くなつて来ているので、この方面の対策を\*

### 仏教界ニュース

○浄土真宗本願寺派では四月の新年度から新たに局制を設け四局(法式、教学、組織、内務)十一部制とし、また総局公室、内事室、伝道院を総局直轄機関として新機構の発足をみた。そして教化第一主義の第一歩として伝道院長に東洋文化研究所長、東京大学教授結城令聞博士を迎え、その教学の実践に乗り出そうとしている。

○真宗高田派専修寺では親鸞聖人七百回遠忌法要を四月六日から十六日迄つとめた。この間の参詣者数は約二十万と云われる。法要中この遠忌記念事業の一つであつた宝物の

収蔵庫が完成し仮落成式を行つた。四月七、八日の両日に亘り第九回真宗連合学会が専修寺で開催されたがこの大会に専修寺所蔵の親鸞真蹟本をはじめ多数の宝物の特別展覧をした。

○全仏では核実験再開反対の声明を発表した(三月廿七日)

○人事面 臨濟宗妙心寺派では管長に古川大航が三選、真宗大谷派では訓導信雄の第二次内局が成立し、先きに合同した浄土宗では首脳人事を決定し宗務総

長に小林大巖を選任した。また仏教東漸七十年記念会では池田勇人を名誉顧問に推した。

○建造物 全日本仏教尼僧法団では慈母会館建設資金に一億五千万円をあてることとした。また真言宗豊山派総本山長谷寺は宝物の収蔵庫建設を決めた。

○出版関係 立正、大正、駒沢大谷、竜谷、高野山の六大学から成る「大藏經學術用語研究会」では「大藏經」のインデックスを十五巻の予定で計画していたが、このほど「大正新修大藏經」巻廿九の俱舍論関係の索引を大谷大学研究室が主となつて「大正新修大藏經索引巻廿九」として出版の運びとなつた。(六月下旬「大藏出版社」から発刊予定、定価三千円)また加藤宗厚編「正法眼蔵要語索引」巻上(「理想社」発行、定価三千五百円)も発行された。

○学界関係 浄土宗興善寺(奈良市畑町)ではこのほど本尊の阿弥陀如来胎内から多数の造立関係文書が出たが、この中に法然房源空の消息が発見されたという。これ迄に源空の自筆本は稀で、わずかに京都廬山寺の「選択本願念仏集」巻頭の二行「一字と二尊院の」七カ条起請文(源空の署名と清涼寺の熊谷蓮生(真実)宛の消息等が挙げられているにすぎなかつた。若しこれが真筆本とすれば源空の研究に新しい史料を提供することとなつたわけである。調査研究の発表が待たれている。以上は文部省の宗務月報五月号より抜萃したものである。

### 第十回全日本仏教徒会議

#### 宣言決議

この歴史的な時点に立ち、冷厳なる現実を直視した時、仏教徒に対する全人類の平和への熾烈なる願望が、今日ほど痛切に感ぜられることはない。

かかる世界的背景のもと、ここに第十回全日本仏教徒会議大阪大会が開かれ、仏陀の精神を根底として、あらゆる角度より人類の基本的あり方を討議し、全仏教徒の総力を結集し、叡智を集め、もつてこの要請にこたえて、その焦燥と不安とを除去し、明るい理想社会の現出に精進することを宣言する。

#### 決議

一、われわれ全日本仏教徒は、仏陀の御教えを奉じ、敬しい反省のもと、仏国土建設に邁進することを決議する。

二、われわれ仏教徒は、各国の仏教徒と親善提携し、人類の安心立命と福祉とに献身することを決議する。

三、われわれ仏教徒は、積極的に時弊を正し、政治、経済、文化の面に仏心を顕現することを決議する。

四、われわれ仏教徒は、近代的教化の研鑽にげきみ、青少年の育成に積極的に挺身することを決議する。

昭和三十七年六月一日  
第十回全日本仏教徒会議  
大阪大会

### ○天台宗務庁内局更迭

六月十二日付書状をもつて天台

※考えねばならない。  
4、団地に対する教化布教対策を考えよう。

5、魅力ある仏教に脱皮するよう努力しよう。等、反省と要望がなされたが、結局一寺一仏教が理想である旨強調された。

これに対して、石川果仏、仏教同志クラブ、曹洞宗仏教、全日仏青などからいろいろ意見が出たが結論として物心両面より仏教を育てなければ、将来の仏教界は憂うべき状態となることを成人仏教者は何ものにも優先して銘肝すべきであるという点で満場一致賛成可決採択された。

しかし、毎年この仏教育成のことが満場一致で可決採択されながら何故具体的に実行されないか、ということについて大谷派仏教より意見が出てそれを具体的に破る方法として一、教学の徹底二、リーダーの養成、三、組織の強化の三方面からすべきであるとの真面目な意見が出たが、こうした話合の中から仏教運動への暖かい助長育成が、大人の手でなされなければならぬという肝銘深い雰囲気の中に満堂の拍手をもつて了承された。

20号 インドに日本寺建立のた宗務庁内局は左の通り更迭した旨通知があつた。

宗務総長	清田 寂坦
参務部長	奥野 覚庵
庶務部長	谷 暁昭
参学部長	柴田 昌源
参事部長	柴田 昌源
録事	菅田 玄昭

め、写経運動を推進しよう。

融通念仏宗 滝野弘澄 ブツダガヤに、すでに一万五千坪の土地が提供されているので、ここに日本寺を建立して、仏跡参拝者の宿泊所、並びに日本仏教弘宣の国際的拠点とするため、一億円の予算獲得を五カ年計画をもつて、般若心経の写経運動で実現しよう、そして、この音頭を全仏がとってもらいたいという提案者からの説明並びに要望があつた。

これに対して、京都仏教徒会議より「セクト主義をインドにもち込むな」という要望があつたが、満場一致、推進することに決定採択された。

なお第二日の総会で全日仏青の仲田順和氏から緊急動議として「タイ、ラオス仏教徒に要望する」が提出され万場の賛同を得たが、国際局では近々文書を以てタイ及ラオスWFBを通じて要請することになつてゐる。

### 三河島事件の命日

寛永寺一山総出て追兵法要 国鉄未曾有の三河島駅大惨事の死者は百六十名を数えたが、その命日に当る六月三日午後二時に事故現場において東京上野の東叡山寛永寺住職浦井亮玄大僧正が導師となり荒川仏教会、下谷仏教会が後援のもとに盛大なる追兵法要が開催され、遺族多数も列席し悲しみを新たに亡き人々の冥福を祈つた。また四十九日に当る六月二十日午後二時には荒川仏教会が主催し事故現場で遺族、国鉄関係者、地元民らが集りしめやかに追悼法要が営まれた。

# 参議院議員選挙に臨み 常務理事会開催さる

## 仏教界関係立候補者を推薦

去る六月十六日(土)午前十一時より事務局に於て常務理事会が開催され、当面せる参議院議員選挙に關し、仏教界関係立候補者の推薦につき、種々審議の結果、左記の方々を推薦する事に決した。なお、地区区立候補者に対しては、仏教界に於ても極力推薦の運動を推進する様、申入れをする事になつた。

本会推薦候補に対しては、①推薦書及び激励文を送る事となり、②特に本会に尽力された候補者に対しては、常務理事及び事務局当局者に於て選挙事務所(在東京)を訪問して激励する事となつた。③各宗派、各団体に於て極力推薦候補を応援し、下部組織へ浸透する様配慮すること。④公明選挙に協力すること。等を申合せた。

### 全日本仏教会推薦候補(順不同)

#### ○全国区

- 安部法俊(高野山真言宗)
- 大谷蟹潤(真宗大谷派)
- 川野三暁(浄土真宗本願寺派)
- 一松定吉(浄土宗浄光会長)

#### ○地区区

- 草葉隆円(真宗大谷派)
- 中野文門(臨濟宗、兵庫県仏会長)
- 小柳牧衛(曹洞宗相信徒会長)

当日の出席常務理事は左記十三名である。

- 金剛秀一 平林宥高 清水祐之

阿部竜伝 野村宗春 岩野真雄  
加賀美日聡 末広愛邦(代理)竹中素仁) 山中忍海(代理、谷眺昭)

委任—倉持秀峰 上野頼栄 長岡慶信 山本杉  
当局—白山総長 狩野局長 吉井部長、門屋、相馬、鎌田主事 福井書記

なお全仏当局では各候補の關係府県仏教会代表者に対して、早速推薦方の依頼状を送るとともに必勝を祈つた。

### 全仏役員更迭

五月七日付を以て浄土真宗本願寺派総局更迭に伴い、本会役員は左の通り更迭した。

#### ○評議員

- 新 太田 淳昭 (阿部 慶昭)
- 芝原 郷音 (武田 達誓)
- 神田 寛雄 (有馬 清雄)
- 村上 貫之 (湯川 汝勤)
- 水谷 英俊 (渡辺 静波)
- 清水 祐之 (留 任)
- 細川 量雄 (留 任)

#### ○理事

- 太田 淳昭 (阿部 慶昭)
- 芝原 郷音 (武田 達誓)
- 清水 祐之 (留 任)

#### ○常務理事

- 太田 淳昭 (阿部 慶昭)
- 清水 祐之 (留 任)

- 清水 祐之 (留 任)

## 布哇仏教の展望 (中)

故今村惠猛師は「本願寺正式開教以前に於て、自ら真宗僧侶と称する輩が任意布教に従事し、或は寺院造営の名を假りに寄附金を取め之を私消し、或は置遊蕩蕩、キヤンプの悪風と和し、ために僧侶の声価を失墜せしこと尠くなかつた」と述懐している。

かくの如き警根酷節の時期に於て、多くの開教使は粉骨碎身、ひたすら弘法弘布のため、身を賭して闘い、不安定な生活を厭わず雨漏る飯居を食堂にして邦人移民を唯一の頼りに冠婚葬祭、生活相を唯一の頼りに親代りに引受け、又その子弟には寺小屋ながらの日本語教育を施した。幸い布哇の風土自然はあくまで豊饒であった。其処には四季不変の温暖な氣候と時折訪れるシヤワーが有り、心地良い貿易風は澄み切った大洋の甘い空気を不断に運び、此等開拓民、開教使の疲れを癒し、潤を与えて止まなかつたのである。

### 二、布哇仏教定着期

折りしも日清戦争後、日本の國際的地位がとみに向上し、千八百九十八年(明治三十一年)米布合併により契約労働制度が撤廃され引続く千九百九年(明治四十二年)と千九百二十年(大正九年)に於ける日本人現地労働者の大衆罷業で、邦人の真価が遺憾なく発揮され、その生活も急激に改善されて行つた。千九百九年(明治四十二年)以後実施された日米紳士

協約は邦人労働者の布哇入国を禁止し、更に千九百廿四年(大正十三年)七月より施行された排日移民法によつて妻子一族の呼寄せも不可能になり、既に移住した邦人五万余名は移住後設けた八万余名の子女の成長するに及んで念願の帰国を半ば諦め、定着の覚悟を新たにした。かつて移民当初に見られた無節制、無秩序な邦人社会は次第に陰を潜め、契約労働制度の廃止以来、独立家業に就業するものが続出し、漸次邦人社会の地歩を固めて行つたのである。

### 三、布哇仏教受難期

かく隆盛の一途を辿るかに見えたる布哇仏教も千九百四十一年(昭和十六年)十二月八日を一期として一大受難期に遭遇した。即ち大東亞戦争の勃発である。日本軍の真珠湾攻撃に続く対米宣戦布告と同時に敵国人なるが故に、邦人開教使及び信徒有力者は軟禁され、身柄は米大陸の敵国人集団収容所に移送された。寺院教会は米軍の接収するところとなり、此処に一切の布教事業は挫折して、布哇仏教は遂に終止符を打たれたかの如く見えた。残留の同胞信徒はかつての安息所たりし教会の無残にも打ちたてた姿を垣間見ても無常の念に打たれ、以来四年間無為と不安の日々を送つたと云う。しかし一部有志の間断なき努力の功により、教会は取壊される事もなく維持され、終戦まで持ちこたえた事は、不幸中の幸いであった。

(以下次号)



# 大阪大会重要案件を審議 組織 宗教法人対外委員会開く

去る六月一、二日にわたつて行われた大阪大会における議案を更に審議するため、二十一日午後二時より築地本願寺会議室において、開かれた。出席者は川田委員長以下十五名で、大会の懸案である第七議案及びこれに連関する第六、第八の議案が中心であった。先づ、第八議案の提案者である小谷師の説明を求め、同師より更に一層くわしい具体的説明があつた。結論としては、寺院の経営の近代化に関する研究機関を全仏の組織委の中に設けるか、新たに独立した権威ある強力なものを作るべきであるとの意見摩尼委員も出たが、一足飛びには、いろいろの点で実現不可能であるから、先づ十名以上の構成からなる研究委員会を組織委の中に作り、実績をあげながら徐々に充実して行く、という事で意見の一致を行く、の構成メンバーについては全仏当局に一任ということでした。

なお講習会開催について具体的進行状況を報告して了承を得たが、講習会の要項は、七月始め各団体宛送付される予定である。

## 宗教法人対外委員会 来馬道断氏委員長に推挙される

六月二十一日午前十時より事務総局会議室に於て対外委員会が開催された。小野塚副委員長が議長となつて開会し、大阪大会に於ける重要案件中、吉本道観氏提案の全仏は宗教法人の行う宗教活動に対し公約援助並に金融の途をひらき、仏教興隆のため後援財団の設立を要望するの件につき審議された。又委員長補欠選任の件につき諮られ、来馬道断氏が全員一致で推挙された。おつて理事会の議を経る事になつてゐる。

審議案件については、提案者がオブザーバーとして出席し、補足説明があり、この件に関しては、金融措置の研究、護持財団の設立等、重要事項であるので、理事会に付議する事となり、委員会の意向を充分伝え、事務局に於て具体的に促進する様、望む事となつた。当日井上委員より、政務分離に関しては憲法、宗教法人法にも明確なる規定がない点、又従来に憲法と現行の宗教法人法の真意についての比較研究、国家と宗教保護の問題、公益性の問題等貴重な参考意見を聴取した。出席者左の通り。

小野塚潤澄、鈴木敏範、井上恵行、木村智広(以上委員) 阿部常務理事、栗本、狩野両局長、吉井、柳両部長、門屋主事

## 東京仏教団三十五周年祝賀会

創立三十五周年を迎えた東京仏教団(理事長長岡慶信師)では六月十八日午後四時から上野の精養軒において「同団関係物故諸大徳追慕敬仰と祝賀清宴」を開催し

た。当日は都内各区仏教会より約百六十名の仏教徒が集い、祝賀会について行われた花柳秀社中の日本舞踊などの清興になごやかな一時をすごした。

## 関西事務局役員更迭

四月三十日付をもつて、関西事務局は西本願寺より東本願寺に移転し、事務局役員は左の通り改選された。

- 運営常任委員(七名中二名更迭)  
新 旧  
大田 淳昭 (武田 達誓)  
上野 頼榮 (竹村 教智)  
○運営委員(八名中一名更迭)  
高峰 秀海 (津田 実雄)  
○事務局職員  
事務総長 清谷 得竜  
事務部長 渡辺 俊英  
組織部長 水谷 英俊  
国際部長 佐藤 孝全  
教化部長 奥 博良  
審議部長 深見 文郁  
主 事 白鳥 幸雄  
梶原 隆也  
伊原 一道  
書 記 村上 文円

オーストラリアへ仏教画送る  
既報のとおりオーストラリアのメルボルン画学校へ送る仏教画はその後ぞくぞく集つて来てゐるが、全仏国際局では六月二十七日船便にてオーストラリア宛送付した。仏教画を御寄贈の学校は次の通り  
稲沢女子高校(愛知県稲沢市)  
相洋中学校(小田原市) 武蔵野女

子学園(都下武蔵野市) 比叡山中学校(大津市)、筑紫女学園高校(福岡市)、愛知中学校(名古屋) 多々良学園(山口県防府市) 東大谷中学校(大阪市) 駒込中学校(東京都品川区)、東海中学校(名古屋市) 以上

国際委員に大谷暢順氏  
真宗大谷派の大谷光紹新門主の実弟である大谷暢順氏は、このほどフランス留学を終えられ帰国されたが、今回全仏国際委員会の委員に委嘱され、六月十六日付を以て全仏事務総長より伝達された。

印度大統領より返書  
新たに印度大統領に就任したラダクリシユナン氏(前副大統領)より全仏大谷会長あてにこのほど次のような返書があつた。  
親愛なる大谷会長殿  
全日本仏教会を代表して私に對し寄せられた貴下の祝電に對し衷心より感謝申上げ、貴国仏教徒によりし御鳳声下さるようお願い致します。  
一九六二年五月廿一日  
於ニューデリー大統領官邸  
大統領ラダクリシユナン

田村晃祐氏セイロンへ  
英文仏教百科辞典編纂に従事するため、セイロン政府の招きで田村晃祐氏(元日本編纂所員)が六月九日午後五時横浜港よりフランス船ラオス号にて出発した。田村

氏は約二年間セイロン国ペラデニヤの英文仏教百科辞典編纂所に於て同国の編纂事業に従事する。

国際仏教研究所夏期講座  
国際仏教研究所関東支部(東京東洋大学仏教研究室)では仏教学生はじめ一般社会人の英語能力増進のため夏季講習会を、来る六月廿七日から廿九日まで、東慶寺(鎌倉市山の内町)にて開催した。

○宗教法人法・法人(地方登録) 税法墓地法規・全仏定款・加盟団体・諸役員録(全仏、宗派総本山、別格本山、本山) 仏教系高校大学一覽・世界(国内)

「全仏必携」  
仏教徒会議、講習会集録等 仏教徒座右必携の書!  
○体裁Ⅱ新書版 ○定価三百円  
○約二百五十頁  
限定版につきお申込みはお早く  
お願いします。(郵税実費)  
全日本仏教会 総務局

タイ国法王急逝  
日本に於ける仏陀チャヤンテイにも出席したことがあるタイ国法王(バンコク市ワット、ベンチャマポピット住職)は心臓麻痺のため十七日急逝された。全仏では直ちに弔電を打ち冥福を祈つた。

あとかぎ  
○本号は大阪大会を特集しました紙面の都合上詳細に亘り掲載出来ないことを御容謝下さい。○参議院選挙で仏教代表が全員当選されるよう同信各位の熱烈な応援を。酷暑の折柄御自愛の程を。